



SASAYAMA FIELD STATION
神戸大学 篠山フィールドステーション

Rural Innovation Lab
KOBELAB
KOBELAB SASAYAMA

RURAL INNOVATION LAB
神戸大学・篠山市 農村イノベーションラボ



農村の未来を創る「地」と「知」の拠点

神戸大学・篠山市農村イノベーションラボ+篠山フィールドステーションは、農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点です。神戸大学と篠山市の地域連携協定のもと、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となり進めています。

篠山には、戦後、神戸大学農学部の前身である兵庫農科大学が設立され、1966年の国立移管までの間、多くの学生や研究者が、学び、研究をおこなってきました。その後、当時を知る人々が次第に少なくなる中、改めてその関係性を再構築し、「地」と「知」の発展のため、連携して様々な活動をおこなうこととしました。

篠山市と神戸大学は2007年の地域連携協定締結以降、篠山フィールドステーションの開設や、大学生が篠山で農家に学ぶ実践農学入門や専門知識を活かし現場で実践する実践農学などの「食農コープ教育プログラム」に取り組むとともに、さまざまな共同研究やプロジェクトをすすめてきました。2014年からは、地域人材育成の一つとして、神戸大学生が篠山に住み込みながら自身の専門知を活かした地域の課題解決を目指す「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入して展開しています。また、「食農コープ教育プログラム」をきっかけとして、学生が自主的に学生団体を結成し、地域の課題解決や地域住民との交流活動を行っており、篠山で活動する学生団体のメンバーは計150人ほどとなっています。

地域連携を支える3つの取り組み 豊かな自然に恵まれた丹波篠山を舞台に様々な活動にチャレンジしています

1 地域創造研究

農村地域の課題解決を目指し、新しい価値を生み出すような研究をおこないます。また、自主共同研究の実施、および研究者等が篠山市で実施する調査研究の支援を通じて、現場とともに社会実験を進め、他地域へ展開可能な地域課題の解決および地域のより良い発展を目指します。



篠山で実践されている研究の多くは学会だけでなく、市民に向けても広く発表しています。

2 地域人材育成

篠山や農山村地域を舞台に活躍する学生や若手実践者など、地域発展と課題解決を目指したイノベーターたちの学びや挑戦、成長をサポートします。「食農コープ教育プログラム(大学生向け)」や「篠山イノベーターズスクール(社会人向け)」など、地域に根ざした実践的な学習プログラムを企画支援します。



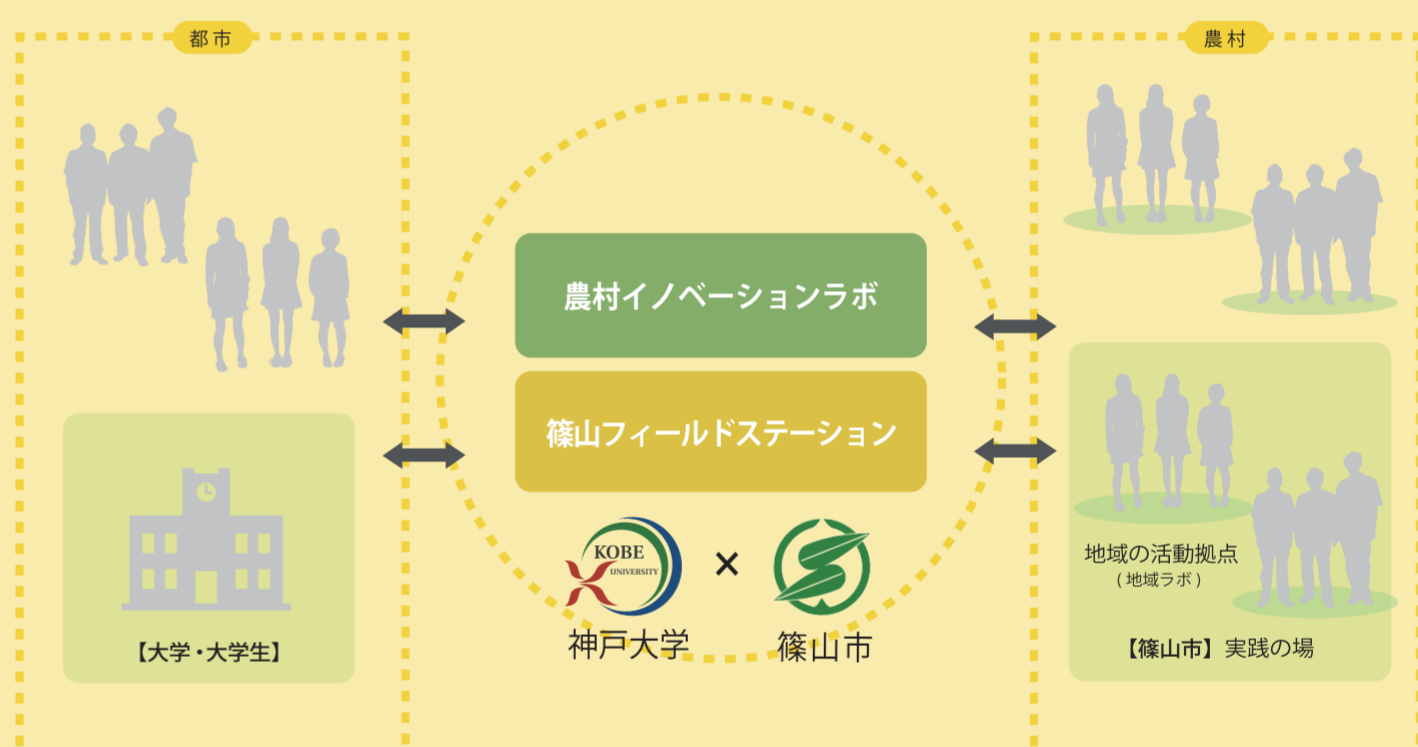
大学生から社会人まで農村を舞台にした多様な人材育成プログラムを実践しています。

3 情報・活動支援

さまざまな立場の人々のネットワークづくりを支援し、地域情報の共有と創造を進めます。各種ワークショップやセミナーなどをおこなうとともに、地域づくり活動、政策についてのアドバイスやサポートもおこないます。



地域連携フォーラムや各種セミナーなどを通じて大学の取り組みや事業を公開しています。



プロジェクトスタッフ 大学研究者をはじめ、若手研究者や実践家など分野を問わず多様なスタッフが運営しています



星 信彦
リーダー
神戸大学大学院
農学研究科 教授



中塚 雅也
ディレクター
神戸大学大学院
農学研究科 准教授



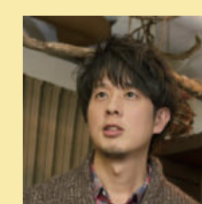
衛藤 彬史
コーディネーター(篠山市)
神戸大学大学院農学研究科
学術研究員



橋田 薫
コーディネーター (LAB)
一般社団法人 EKILAB.



木原 弘恵
コーディネーター (COC+)
神戸大学 地域連携推進室
特命講師



内田 圭介
コーディネーター (地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科
学術研究員



板垣 順平
コーディネーター(地域おこし協力隊)
神戸大学大学院農学研究科
学術研究員



眞鍋 邦大
コーディネーター (LAB)
一般社団法人 EKILAB.



林 利栄子
スタッフ
神戸大学大学院農学研究科
事務補佐員



谷垣 友里
コーディネーター (LAB)
一般社団法人 EKILAB.

【パートナー】

高田晋史(島根大学生物資源科学部 助教)、西島よき(まちPRオフィス代表)、能口秀一(有限会社ウッズ 代表取締役)、林健二(一般社団法人 TSUMUGI 代表理事)、山本和代(街角企画株式会社)、横山宜致(公益財団法人兵庫丹波の森協会)、小橋昭彦

神戸大学 篠山フィールドステーション

〒669-2324 兵庫県篠山市東新町4-5
Phone / Fax 079-506-2366
http://fieldstation.sasayamalab.jp
E-mail: sfs.kobe@gmail.com



神戸大学・篠山市 農村イノベーションラボ

〒669-2212 兵庫県篠山市大沢165-3
Phone / Fax: 079-506-6628
http://sasayamalab.jp
E-mail: info@sasayamalab.jp



まち・ひと・しごとの創造的な循環を生み出す

地域をめぐる様々な取り組みを実践し、イノベーションをおこす

01 地域創造研究

里山の管理を再開して森を健康に持続させる...地元への提案を目指して
 黒田 慶子 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 里山植生、森林保護、ナラ枯れ、バイオマス

人工衛星画像解析を用いた兵庫県内の圃場毎営農状況の自動判別法の開発
 長野 宇規 (神戸大学大学院農学研究科教授)
KEYWORD 農地土地利用、リモートセンシング、耕作放棄、地域計画

駆除した侵略的外来生物の活用方法の研究
 鈴木 武志 (神戸大学大学院農学研究科助教)
KEYWORD 侵略的外来種、外来種駆除、外来種の利活用、有機肥料化

住民主体の小学校跡地活用計画の策定と課題
 中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 小学校跡地、住民主体、合意形成、計画プロセス、篠山市福住地区

地域固有性の発現と農村発展モデルの確立
 中塚 雅也 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD アクターネットワーク、農村計画、環境保全型農業、地域連携

規格外農産物に新たな価値の創出を目指した地域連携商品の開発
 板垣 順平 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 規格外農産物、商品開発、地域連携、6次産業化

農産物の選別時における「経験知」とモノの相互交渉に関する研究
 板垣 順平 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 経験知、ライフストーリー、農産物の選別、エスノグラフィックリサーチ、山の芋

夏祭りの運営を事例とした集落連携の発展過程に関する動態的分析
 衛藤 彬史 (神戸大学大学院農学研究科准教授)
KEYWORD 集落間連携、地域資源管理、埋め込み理論、祭り

獣害対策の推進と環境創造型農業の連関に関する研究
 清野 未恵子 (神戸大学大学院人間発達環境学研究科助教)
KEYWORD 獣害対策、稀野、都市農村交流イベント、環境創造型農業

篠山市における地域歴史遺産の保全と活用
 前田 結城 (神戸大学大学院人文学研究科准教授)
KEYWORD 地域歴史遺産、古文書合宿、インタラクティブ学習、編集、古文書の利用

【学生による調査・研究】

獣害対策を通じた地域づくり手法の開発
 菅原 将太 (神戸大学大学院農学研究科大学院生)
KEYWORD 獣害対策、地域づくり手法、CVM、アクション・リサーチ

**母子にやさしい街づくり
—篠山市乳幼児健診での取り組み—**
 海老名 葵 (神戸大学大学院保健学研究科大学院生)
 近藤 有希 (神戸大学大学院保健学研究科大学院生)
KEYWORD 乳幼児健診、健康状態、健康チェック、産後の身体機能の不調

農村集落における自家採種の実態と種子保全—篠山市畑地区を事例として—
 遠藤 真森 (神戸大学農学部学生)
KEYWORD 植物遺伝資源の保全、自家採種、後継ぎ問題、採種作物の経済的活用

農村景観に対する嗜好特性と景観整備の方向性
 三島 崇弘 (神戸大学農学部学生)
KEYWORD 農村景観、景観整備、嗜好特性、篠山市大字地区

02 地域人材育成

食農コープ教育プログラム

● 実践農学入門 (履修者:45名)

篠山市内の農村地域で地元農家に師事し、農作物の栽培や、むら仕事を体験するなかで、農業や農村生活に関する理解を深めます(6回)。また、校内学習においては、体験から得た知識をもとに、地域の課題解決に向けた提案を考えるためのワークショップ(3回)と農村体験活動やボランティア活動への参加(1回)を設定しています。平成28年度は、農学部や経済学部、工学部などの学生が大牟地区で黒大豆の移植や中耕、収穫・選別などの農作業を全11グループに分かれて実施しました。

交流会での田植え作業
 第一回目の実習では、実践農学入門を受講した学生たちと大牟地区の農家さんと地域住民を交えて交流会が開催されました。交流会後は、農家さんらに教わりながら田植えを体験しました。

黒大豆の収穫と選別
 年間を通じて様々な黒大豆の栽培作業を体験し、実習最終回では、これまでの農作業によって実った黒大豆を収穫しました。また収穫後は大きさに選別しました。

情報の整理やアイデアを導くためのワークショップ
 全ての実習を終えた後、これまでに得た経験や知見をもとにワークショップを行い、地域をよくするアイデアやプロジェクトを提案しました。

【ホームページ】<http://kobe-face.jp> [fandacoop2016](https://www.facebook.com/fandacoop2016)

● 実践農学 (履修者:37名)

調査やプロジェクトへ実際に参加し、農村地域における現状課題を調査・分析するとともに、課題解決に寄与する取り組みや施策の企画立案から検証実験までのプロセスを理解することをめざします。今年度は、インターンシップ型の実習として、市内のまちづくり協議会や行政、地元企業など計7団体が受入先となり、プロジェクトごとに企画立案や施策を実施しました。

| | |
|-----------------|--------------------|
| 森づくり | 都市農村交流の場づくり |
| 山の芋普及啓発 | ふるさと納税推進 |
| 準・協力隊員活動 | 農作業支援体制改善 |
| 売り場改善 | |

● CBL

Community Based Learningの略で、地域ビジネスの先駆者とともにプロジェクトに取り組むことを通じて、その技術やノウハウ、理念などを学ぶ地域プロジェクト実践型学習で、CBLでの学びをもとに地域資源の発掘や新たな価値の創造を通じたビジネスに発展することも期待されます。毎期3つのCBLが開校され、スクール生は各CBLのメンター指導のもと、篠山を舞台とする実際のプロジェクトをすすめながら、実践的に学びます。具体的には、①農村地域における現状課題を調査・分析し、②課題解決に寄与する事業や施策の企画立案プロセスを理解することを目指します。

丹波食べる通信(仮称)立ち上げプロジェクト
 ~生産者と消費者をつなぐ仕事づくり~
 全国で30地域を超えるまでに拡大した、生産者と消費者をつなげる「食べる通信」の発行を丹波地域で挑戦します。

クリエイティブ農業実践プロジェクト
 ~未来を切り開く農業を学ぶ~
 無農薬・少量多品種栽培や土へのこだわりなど、従来の野菜に対する価値観を根本からとらえ直し、新たな商品の提案を目指します。

跡地活用スモールビジネス立ち上げプロジェクト
 ~旧小学校を舞台に活用デザインを考える~
 現地調査やヒアリングを通じて「場」の本質を理解し、その場を中心としたような「仕事」を生み出していくかを考えます。

篠山イノベーターズスクール

(一期生履修者:19名)

実践を通しての学習プログラム

● セミナー

大学教員や実務家による講義形式のセミナーです。対話と事例を重視しながら、地域でビジネスや活動をおこなう上で必要とされる、基礎的な理論や考え方を学ぶことができます。2017年現在、全6つのセミナーが開校され、スクール生は、各自のテーマや興味関心に合わせて、3つのセミナーを選択・受講し、ビジネス創出に必要な基礎知識や手法を学ぶことができます。

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| システム・デザイン思考 鶴田 宏樹 | 食と農の流通とマーケティング 小野 雅之 |
| 農村イノベーション 中塚 雅也 | ファシリテーション入門 久保 隆 |
| 地域の成り立ちと構造 奥村 弘・横山 宣哉 | ローカルデザインスキル 二階堂 薫 |

【ホームページ】<http://school.sasayamab.jp>

地域おこし協力隊

篠山市地域おこし協力隊は、現役の学生や大学院生が学業と並行して協力隊活動を行う「学生挑戦型」と自身の専門性や得意分野を活かしながら起業を目指す「起業支援型」、そして自身の研究手法やテーマで地域課題の解決を目指す「地域研究型」の3つの活動形態を設けています。学生の挑戦する力と起業、そして研究といったそれぞれのアプローチから地域課題の解決を目指すとともに、挑戦的な事業を展開していきます。

| | | | | | | | |
|--|---|--|--|-----------------------------------|--------------------------------|--|----------------------------------|
| 長井拓馬 (2014~2016) 「生物多様性」「手裏羊糞」「学生と地域の連携」 「合同会社ルーフス」 | 瀬戸大吾 (2014~2016) 「ささやま羊糞」「糞炎」「学生と地域の連携」 | 菅原将太 (2014~2016) 「獣害イベント」「まちづくり計画」「都市農村交流」「廃校利用」「里山工場のこもへ」 | 石坂将一 (2016~) 「廃校校舎をカフェとして蘇らせる」 | 小牧満也 (2016~) 「住民登壇を始める」 | 岸田万穂 (2016~) 「古案の復活」 | 板垣順平 (2016) 「エスノグラフィックデザイン」「クラフトワーク」 | 内田圭介 (2017~) 「暮らしをつくる」 |
|--|---|--|--|-----------------------------------|--------------------------------|--|----------------------------------|

03 情報・活動支援

学生活動団体

毎年、篠山市内の異なる地区で実施されている実践農学入門に参加した学生らが自主的に学生団体を結成しています。活動目標や取組内容は様々で、それぞれが特色やこだわりを持って地域と連携した活動を行っています。楽しみながらも、継続的に地域のさまざまな課題解決にチャレンジしています。

セミナー・イベント開催

59件

篠山市と神戸大学は1年間の成果を広く市民に知ってもらうため、今後の展開を考えるうえでの意見をもろう場として、年に1度「篠山市・神戸大学地域連携フォーラム」を開催しています。その他、本年度は神戸大学文学部の古文書合宿、RLN第18回セミナー、WATANOWAプロジェクト、神戸大学の総合科目「ボランティアと社会貢献活動」の受入れなどを行いました。

視察件数

27件

関西圏をはじめとする計14の国内の大学とチュラロンコン大学やUPLBなどの国外の教育機関、内閣府をはじめとする各地方行政機関、長崎県や山形県の地域おこし協力隊員など、様々な公共団体や市民グループの視察受入れを行っています。
大牟 龍谷大学、兵庫教育大学、奈良女子大学、東京学芸大学、名古屋大学、富山大学、関西学院大学、大阪府立大学、大阪芸術大学 (順不同)

相談件数

72件

本年度は、相談件数、施設利用数ともに前年度よりも増加しました。特に、相談件数で最も多かったのは、地域住民からの相談で、次いで行政関係者、協力隊関係となりました。また、神戸大学以外の大学や地元高等学校といった教育機関からの相談や訪問件数が増加しました。

施設利用件数

187件

本年度は、例年実施されている神戸大学文学部の古文書合宿や留学生センターの「日本文化見学旅行」受入など、神戸大学関連の施設利用に加え、地元の高専等学校の特別講義や演習、さらに、地元活動団体のセミナー開催等の利用がありました。

(2016年1月~12月)

ささやまファン倶楽部 (真南地区)
 (真南地区)
 2010年結成。地域の魅力発見をテーマに月に1~2回、地域の方々との交流や里山整備などを行なっています。

はたもり (畑地区)
 2012年結成。地域住民とともにイベントの企画や運営補助を行い、特に「はた祭り」に力を入れています。

にしき恋 (西紀南地区)
 2013年結成。地域密着を理念に、毎週末農業ボランティアや黒大豆の栽培、地域交流等を行っています。

サンセット12 (日置地区)
 2015年結成。地域の方々と一緒にイベントの企画や運営補助を行い、特に「はた祭り」に力を入れています。

AGLOC (岡野地区)
 2016年結成。地域と世界を繋ぐをテーマに、留学生らとともに月1回の農業ボランティアや地域活動を行っています。

大牟 (大字地区)
 2017年結成予定。現在、学生団体の立ち上げを目指して地域イベントに参加したり、農家のお手伝いを定期的に行っています。